子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：

Association Between Screen Time Exposure in Children at 1 Year of Age and Autism Spectrum Disorder at 3 Years of Age

和文タイトル：

1 歳時のスクリーンタイムと 3 歳時の自閉スペクトラム症との関連

ユニットセンター（UC）等名：甲信ユニットセンター

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名：JAMA Pediatrics

年：2022　　DOI：10.1001/jamapediatrics.2021.5778

筆頭著者名：久島　萌

所属 UC 名：甲信ユニットセンター

目的：

幼児期におけるスクリーンタイム（テレビや DVD などの画面を見る時間）と自閉症スペクトラム症に関する大規模な追跡調査は、これまでほとんど行われていない。本研究では、1 歳時のスクリーンタイムと 3 歳時の自閉スペクトラム症との関連を検討した。

方法：

本研究では、エコチル調査に参加した 84,030 組の母子を対象とし、1 歳時のスクリーンタイムと 3 歳時の自閉スペクトラム症との関連について、多変量ロジスティック回帰分析を行った。1 歳時のスクリーンタイムは、1 歳時点での母親への質問票調査で、3 歳時の自閉スペクトラム症については医師の診断の有無を 3 歳時点での母親への質問票調査で把握した。自閉スペクトラム症の有病率には男女差が認められていることから、男女別の層別に解析した。

結果：

男児では、1 歳時点の子どもの発達の遅れなどとは無関係に、1 歳時のスクリーンタイムの長さと 3 歳時の自閉スペクトラム症との関連が認められた。スクリーンタイムが「なし」のグループに比べて、3 歳時に自閉スペクトラム症と診断される頻度は、「1～2 時間未満」のグループで 2.16 倍、「2～4時間未満」のグループで 3.48 倍、「4 時間以上」のグループで 3.02 倍となった。一方、女児では関連は認められなかった。

考察（研究の限界を含める）：

本研究では、男児では、1 歳時のスクリーンタイムの長さと 3 歳時の自閉スペクトラム症が関連することが明らかになった。しかし、調査は母親の報告に基づいていること、子どもがスクリーンを見ている正確な時間はわからないこと、3 歳時点の自閉スペクトラム症の診断については重度の子どもに偏っている可能性があること、遺伝的要因等について十分に検討できていないこと等の限界がある。今後はスクリーンタイムと自閉スペクトラム症との関係に影響を与える他の要因や、自閉スペクトラム症のリスクを高める時期・要因の組み合わせなどについてもさらなる研究が求められる。

結論：

本研究では、男児では 1 歳時のスクリーンタイムが長くなるほど 3 歳時に自閉スペクトラム症と診断されているという結果が得られた。自閉スペクトラム症の原因は先天的な脳の一部の障害であるが、発症や症状の程度は環境によって影響を受けるといわれている。本研究によってスクリーンタイムは影響を与える環境のひとつである可能性が示された。